

2018年度第2回日本臨床検査医学会 臨床検査専門医・管理医審議会 議事録

日時：2018年9月1日（土）10：30～12：00

場所：日本臨床検査医学会 事務所

出席者（8名）

矢富 裕（委員長；理事長）
山田俊幸（副委員長；専門医担当、副理事長）
村上正巳（研修施設・指導者認定委員長）
菊池春人（受験・更新資格審査委員長）
宮地勇人（試験委員会委員長）
古川泰司（2018-2019 臨床検査専門医試験実行委員長）
東田修二（2018-2019 臨床検査管理医試験実行委員長）
佐藤尚武（日本臨床検査専門医会代表）

欠席者（2名）

木村 聡（臨床検査専門医制度検討委員長）
橋口照人（教育委員長）

矢富裕委員長より開会宣言の後、議事を進行した。

1. 第10回臨床検査管理医認定試験結果について（東田修二 管理医試験実行委員長）

2018年8月5日に帝京大学で、初めて臨床検査専門医試験と同時に第10回臨床検査管理医 講習会・認定試験を実施した。年齢別では、30代5名、40代13名、50代12名、60代5名、70代4名の計39名が受験したが、昨年の19名から受験者が増加したのは、検体検査の精度確保の規定を含む医療法等の改正があったためと推測される。なお、当日、臨床検査専門医の紹介も行われたことが報告された。

管理医試験での各受験者の成績表が提示され、39名が合格基準に達していることが確認され、合格と判定され承認された。

2. 試験委員会報告（宮地勇人 試験委員会委員長）

3. 第35回臨床検査専門医認定試験結果について(2018/8/4-5, 帝京大)（古川泰司 専門医認定試験実行委員会委員長）

2018年8月4日（土）、5日（日）、帝京大学板橋キャンパスで、臨床検査専門医認定試験を実施した。受験者は、合計23名（初回受験19名、全科目再受験3名、一科目再受験1名）であった。

8月5日の試験委員会において、今回の各科目試験および多肢選択問題（MCQ）の難易度、内容について、何れの科目試験も妥当と評価した。ただし、1科目MCQ1問が不適切と判断され採点除外とした。また、同委員会において、判定基準は、筆記試験100点（MCQ50点、記述50点）、実技試験100点、合計200点で、総合平均点60%以上で、かつ、科目別50%以上・60%未満の2科目までは総合合格とすると決定していたが、最終決定は審議会に委ねるとされていた。

審議会においては、他教科に比べて平均点が低い科目（一般・臨床化学）に関して、最高点の60%以上を合格点とすることとなった。この判定基準に則り、各受験者の合否判定を行い、合格16名、不合格7名（二科目受験者3名、全科目受験者4名）合格率約70%となり、承認された。

合否結果通知は、昨年同様、合格者には合否結果のみ、不合格者にはコメントを付記した講評を添付することで了承された。

今回、臨床検査専門医と臨床検査管理医認定試験を同時に実施したが、当日のスケジュールに支障はなく、効率的に実施できた。専門医試験（筆記、実技）は円滑であったが、2つの会場での実施のため動線が伸びた、そのため、事務局に常駐者が必要となった。

管理医受験者に専門医のアピールができ、専門医受験を目指す契機として期待されることが報告された。

次年度の臨床検査専門医認定試験実行委員会については、今年同様、来年1月から始動する方針となり、12月22日の審議会で再確認することとなった。

バーチャルスライドを他学会（日本検査血液学会）から借用する場合、貸借に関する規定（申し合せ）が必要と考えられ、委員長が検査血液学会理事長にこの作成をお願いしたうえで、次回審議会で再検討することとなった。

4. 第35回臨床検査専門医認定試験会計報告について（古川泰司 専門医認定試験実行委員会 委員長）
現時点における会計報告が提示された。確定していなかった費用が確定した報告があり、収支差額は約35万円であり、適正な運用であると承認された。なお、完全な額の決定に関しては、次回の審議会においてなされることとなった。

5. 新専門医制度関連事項（山田俊幸副委員長（専門医担当理事））

日本専門医機構の役員、各委員会委員長が交代となったこと、当会からの基本領域研修委員会、基本領域専門医委員会、基本領域連携委員会委員については、機構より同一人の推薦依頼があり、専門医担当理事でもある山田俊幸副理事長を推薦したことが報告された。

日本専門医機構での2019年度専攻医採用数のシーリングについては、当会は対象外であること、近日中に集約され、10月中旬からプログラム制研修の専攻医募集が開始される予定であることが報告された。

6. その他（矢富裕 審議会委員長、菊池春人 受験・更新資格審査委員会委員長）

専門医と管理医更新単位で参加単位が認められる関連学会について、専門医と管理医では、認められている学会に違いがあるが統一してはどうかという提案があり協議した。

違いがある理由、経緯を確認した。当初より、専門医と管理医では関連する学会には違いがあり、専門医単位は、専門医更新単位の関連学会として要望があった学会が多くなっており、要望があった際には、管理医の関連学会としては追加しなかった。他方、当会 Subspecialty 学会として考えられる学会も含めるべきという意見もあった。また、管理医認定試験の受験資格である取得専門医すべてを更新単位の関連学会として反映してはどうかの意見があった。しかし、現在、管理医認定試験の受験資格となっている専門医は日本専門医制評価・認定機構の加盟学会の専門医であり、すでに、日本専門医制評価・認定機構は解散されているため管理医認定試験の受験資格としての取得専門医について併せて検討する必要があるとして継続審議となった。

次回の臨床検査専門医・管理医審議会 開催日程が、矢富裕審議会委員長より報告され、閉会した。

第3回：2018年12月22日（土）10：30～12：00